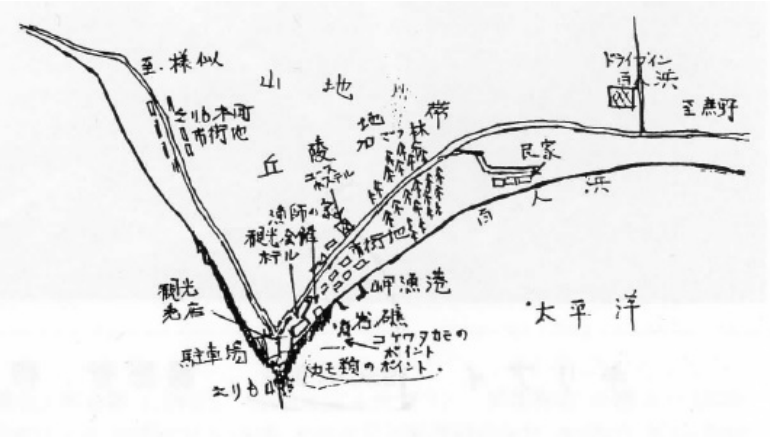
私の探鳥地（１８）（野鳥だより 85 号 1991 年 9 月）

えりも岬付近

井 上　公 雄

昭和 62 年 12 月この岬付近で、初めてコケワタガモが発見されて以来、多少時期違いはあるにせよ、毎年渡来して来ているのが確認されて居る。ここでの探鳥の時季は、12 月－2 月と真冬が良い。既報（71 号 75 号）の通り、コケワタガモは岬先端から少し東側に回り込んだ沖合い、約 200 米位に在る小岩礁が集まった付近で、満潮時には一部の岩が僅かに顔を出す程度、干潮には小岩礁が点々とする。観察のポイントは観光会館ホテルの裏側の漁師風の家の前の納屋辺り。崖の上に在るので、海を見渡すのに絶好の場所、風向きによっては風防の役割を果たして呉れる。岬から漁港迄の沿岸は、断崖絶壁の岩礁地帯、この様な環境を好むシノリガモが多く、沖の方にはクロガモ、ウミアイサ、コオリガモ、アビ、オオハム、ウミスズメ、ハジロカイツブリ、アカエリカイツブリ、ミミカイツブリ、等も見られることもあるが少々遠い。崖の直下で 4 羽のコクガンを観察した事もあった。眼を陸地に向けると、岬付近は丘陵地帯、潮風が強く植生に酷しく、草丈の低い海岸草が葦枯れ色に剥き出し、風雪にさらされ雪も殆ど積もらない。こんな原野に棲むノネズミを目当てにコミミズクが良く姿を現す。



えりも岬付近

岬漁港の在る市街地を過ぎ、庶野への道を挟んで帯状に整然と植栽されたニホンクロマツ、これを強風から保護する板曲り竹の防風柵が施され、一見何かな、と首を傾けたくなる。開拓時代からの乱伐、家畜の過放牧、風雨の浸食、イナゴ大発生による食害等によって、不毛の裸地に荒れ果て、強風は容赦なく表土を吹き飛ばし、粉塵は住民を悩まし、土砂の流失で海は汚濁、豊富であった魚類、海藻炉は激減した。

これらの被害から緑地回復を切望する地元の要望に応え、昭和 29 年緑化事業として植栽が始められ、今では全国松の名所百選にも挙げられる風景林に迄成長した。この松林を過ぎた辺りの海岸寄りは、当時の面影を偲ばせる原野地帯。

暫く行き、山側に少し入った所に、ドライブイン百人浜が在る。この辺りまでの道路海岸寄りが、コミミズク、そしてノスリ、ケアシノスリ、ハイイロチュウヒ、ハヤブサ等のワシタカ類が良く見られ、ハギマシコの小群をも観察している。

一度に幾種ものワシタカ類を観察出来るのは、秋の渡りのシーズソを除いては機会が少ない。

特にポイソトが在る訳ではないので、車での走行に注意し、ゆっくり走りながら探すことになるので、車以外は無理、岬西側から百人浜一帯の環境が丘陵一原野と続く海岸線、前述の他ユキホオジロ、シロフクロウ、シロハヤブサ其の他、原野性の冬鳥が期待できそうな雰囲気、今度は何かがと、期待を抱きながら私は毎冬２－３回は行くが今までに空振りはなく、シーズソの到来を楽しみにして居る。